

学 級 曾於市立末吉中学校

3年4組（男子22名 女子16名）

場 所 末吉中学校体育館

授業者 教 諭 竹下 岳

1 単 元 財政と国民の福祉（大単元 私たちの暮らしと経済）

2 単元について

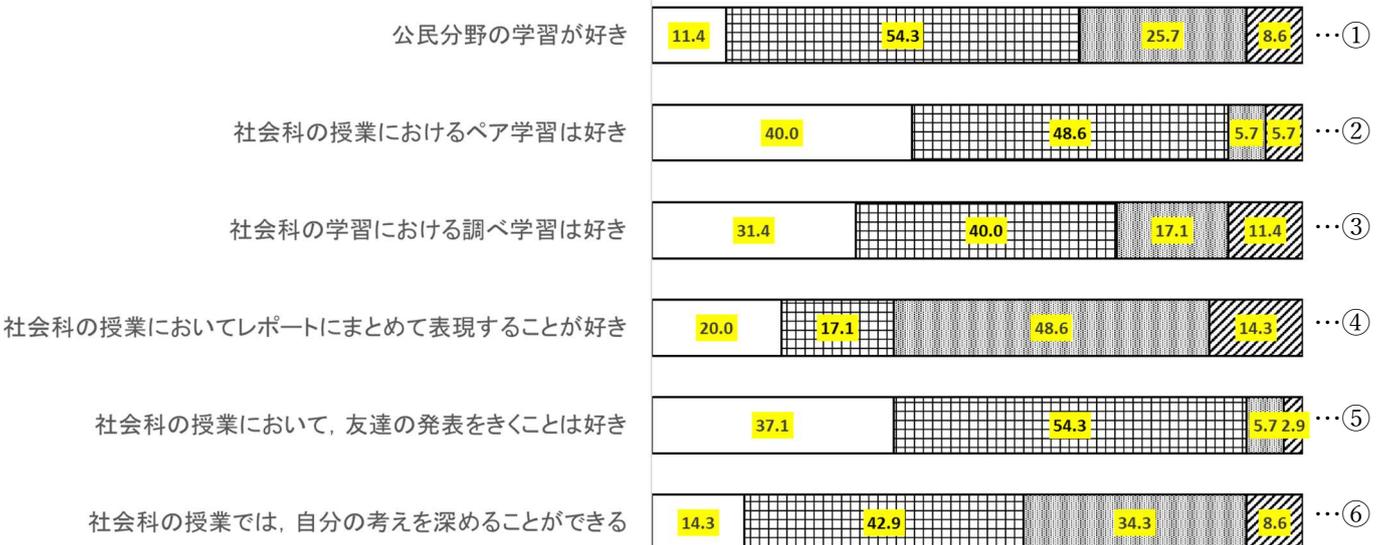
(1) 教材観

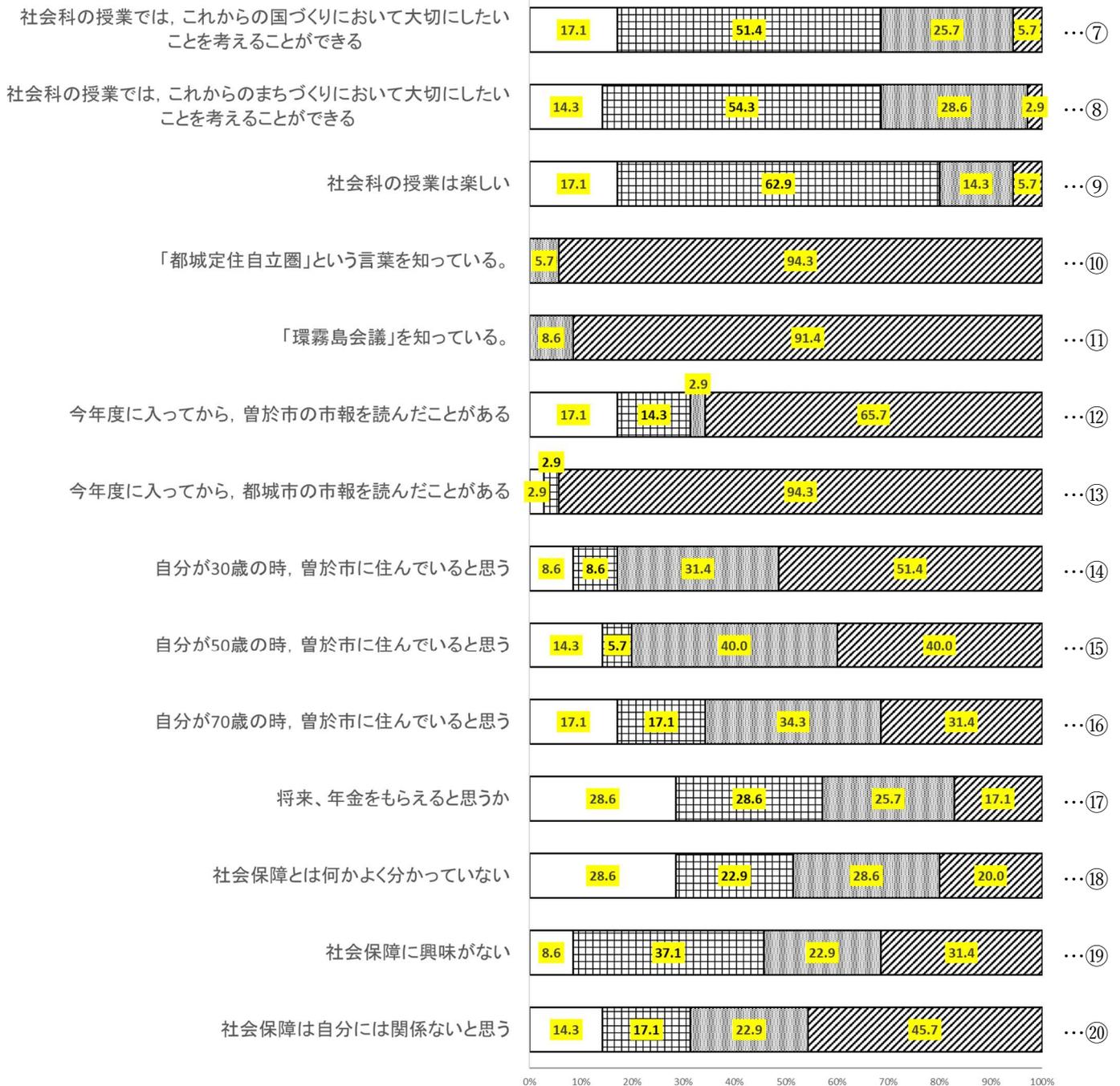
本単元「財政と国民の福祉」は、大単元「私たちの暮らしと経済」の第4節に該当し、主に国や地方公共団体による財政活動や社会保障政策の内容を取り扱う。その財政活動や社会保障政策を支える国民の税金と保険料は、少子高齢化の波を受け、社会保障関係費の増大と税収不足による財政赤字の慢性化という2つの課題を生み出している。さらに、昨年来の感染症に関わる対策や経済支援策、度重なる自然災害への対応などについて、国や地方公共団体の歳出のあり方を考えていかなければならない喫緊の課題も迫ってきている。こうした現状で、本単元の学習を通し、まさに現在や将来の社会に見られる課題に着目して、課題を理解したり、解決策を考察したり、構想したことをもとに議論したりすることは、学習活動に切実感をともない、公民的資質を育む上で有効であると考えられる。

また、本教材として学習対象とする鹿児島県曾於市（人口35,198人、高齢化率40.5%、年少人口10.7%）は、曾於郡旧大隅町・旧財部町・旧末吉町からなり、県東部に位置している。隣接する宮崎県都城市（人口160,126人、高齢化率31.6%、年少人口13.9%）とは、定住自立圏の形成に関する協定書を結んでいる。両市は、通勤・通学、買い物など生活圏としての結びつきが強い。事前に実施した生徒アンケートの結果を見ても、「都城市へよく行く」と回答した生徒が約89%、「どちらかといえば鹿屋市より都城市によく行く」と回答した生徒が約92%おり、曾於市を考える際、都城市は切り離せない関係であるということがわかる。そのため、学習対象とする地域を校区のある曾於市から生活圏である都城市まで拡大して調査や考察を進めていく。

(2) 生徒観

□よくあてはまる ■あてはまる ▨あまりあてはまらない ▩あてはまらない





グラフ①～③・⑤・⑥のように、本学級における生徒たちの社会科授業に対する興味・関心は高い。特にペアで情報交換する場面や情報をヒントに自分たちなりの答えを導く活動などは、意欲的、あるいは発展的に取り組む生徒が多い。その反面で、社会科を苦手とし、様々な学習活動の場面で消極的な生徒も少なからずいる。グラフ⑩～⑬からは、地域への政治的な関心が高いとは言えず、地域の課題やビジョンについて理解していないことが推察される。しかし、グラフ⑭～⑯のように、地域への愛着は希薄なわけではなく、進学や就職で曾於市を離れたとしても、将来的には地元で U ターンしたいと漠然と考えている生徒が多いと推測する。また、⑱～⑳から、生徒たちは社会保障について深く知らずとも、自分たちのためになるものだろうと認識している様子が見えてくる。なんとなく認識している状態から、生徒たちが社会保障そのものに対して無関心となることを防ぎ、よりよい社会を形成していけるよう、知識を学ぶ機会と財政との関わりについて考える時間を設ける必要があると考える。

(3) 指導観

「財政と国民の福祉」では、現在の日本、特に地方が直面している人口減少という課題に着目することは

不可避である。これまでも、授業で少子高齢化や人口減少について学ぶ中で国や地方の財政について触れる機会があったが、深く追究することはなかった。それゆえ、今回「財政と国民の福祉」を学習するにあたり、人口減少をキーワードに、生徒たちが国や自分の地域の状況について考えていくように展開していきたい。具体的には、若者の転出を大きな要素とする人口減少は少子高齢化の状況を生み出し、さらなる過疎化の進行につながることで、曾於市域においては、1990年から30年間の間でも1万人以上の人口が減少し、現在では高齢化率も40%を突破していること、過疎化はどの地域でも起こりうることなど、全国各地と自分の地域を比較しながら、人口減少の状況を捉えさせたい。

さらに、少子高齢社会における財政について学習することで、社会保障制度に課題意識を向け、議論を深めるきっかけとしたい。

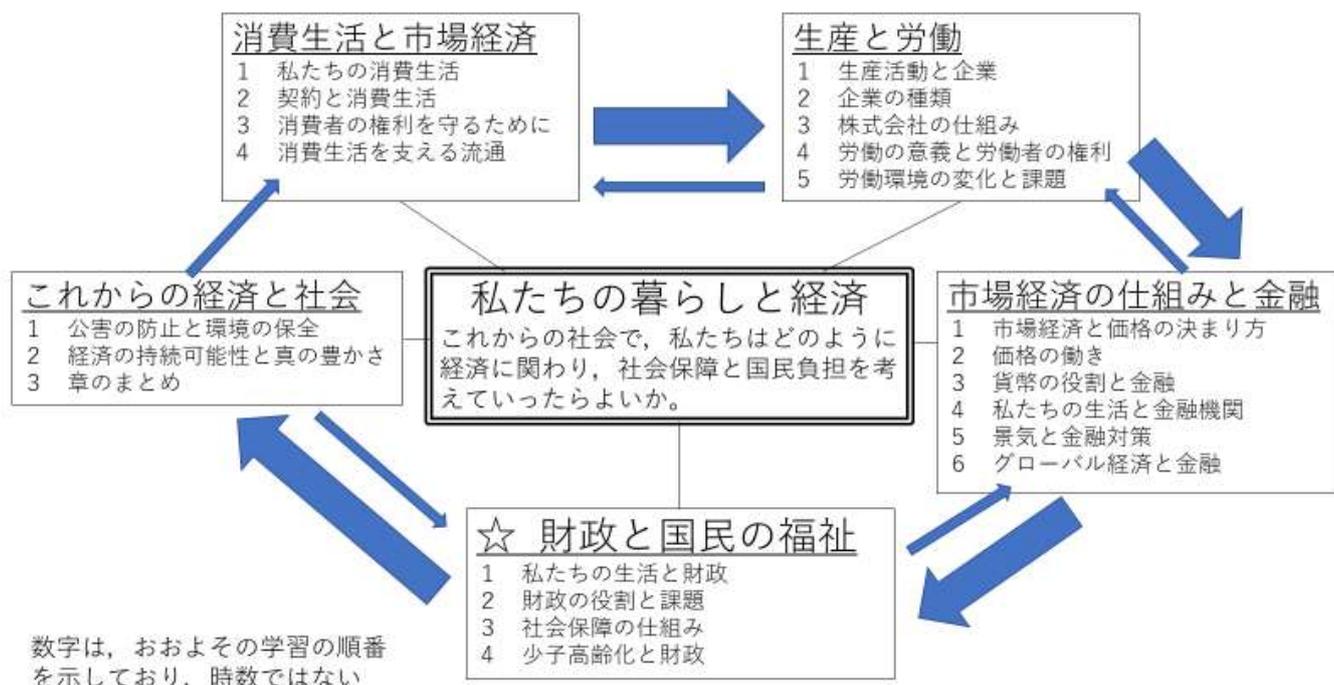
そのために、本単元では、学習対象を曾於市と都城市に定め、生徒自身が広報誌等から入手できる具体的なデータを主に活用しながら展開していく。社会科への関心が高く、鋭い観察眼で地域を見つめている生徒の課題意識を周りに波及させ、学び合う形で展開する学習活動を目指し、ダイヤモンドランキング等の思考ツールを活用する。

3 単元の目標

- (1) 国民生活の向上と経済活動との関わりの中で、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、財政及び租税の意義について、個人と地域社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から財政に関する情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 資料を読み取った上でそれぞれの世代に配慮している社会保障の充実・安定化、公平な社会の在り方について考察、構想し、表現できる。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 地域の財政について関心を高め、学習したことをもとに考えを練り上げる中で、自分なりの意見を形成し、主体的に社会に関わろうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

4 単元の指導計画

(1) 大単元の指導計画



※ 地方自治については、この大単元を学習したのちに履修予定

(2) 単元の指導計画

時	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準等 ○「記録に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」
		知	思	態	
<p>学習課題 「少子高齢社会に対応できる歳出とは？」－国民の福祉にとって、なぜ財政が重要なのか－</p> <p>【ねらい】：少子高齢社会における財政のあり方について、資料を用いて現状を把握しながら、社会保障における受益と負担のバランスを考える。また、都城定住自立圏を構成する曾於市や都城市についても取り上げる中で、自主財源の確保の重要性や財政のはたらきもたらす有益性について理解する。</p>					
第 一 次 第 1 時	◇ 私たちの生活と財政				
	<p>本時の課題 「財政の仕組みについて理解し、税金の役割について考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政の仕組みと税金の種類について理解する。 ・ 税金の役割と公平性、納税の義務を考察する。 ・ 納税の義務と国の一般会計予算の現状について考察する。 ・ 地方交付税交付金等について、教科書 114 ページの内容を参考に理解を深める。 	●	●	●	● 財政の仕組みと税金の種類について理解し、納税の義務がある理由について考察し、表現している。(ノート)
第 2 時	◇ 財政の役割と課題・社会保障の仕組み				
	<p>本時の課題 「国や地方公共団体の財政には、どのような役割と課題があるか考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政府が供給する財やサービスを見付ける。 ・ 財政の役割、政府の財政政策と景気の関係について理解する。 ・ 社会保障制度について理解する。 ・ 消費税の役割を考える。 	●	●	●	● 社会保険の利点と課題を考察し、重要だと思う内容を表現している。
第 二 次 第 3 時	◇ 少子高齢化と財政 (1 / 3)				
	<p>【課題】「曾於市の少子高齢社会と地方創生に対応できる財政のバランスを考えよう」(3時間続き)</p> <p>【第3時～第5時のねらい】：少子高齢社会では、現役世代の負担増が懸念されている。地方財政をひっ迫させず、住みよいまちづくりを進めるための財政のあり方を議論させることで、家庭や地域で財政について話題にするきっかけ作り出し、公民的資質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曾於市の現状について、資料からわかることを読み取り、自主財源・依存財源(公債金)の割合や課題を確認する。(参考資料：国の一般会計予算、曾於市の人口、曾於市の予算) ・ 曾於市に占める依存財源の割合について考察し、自主財源の現状をつかむ。 ・ これまでの学習を通した、曾於市に関する振り返りを行う。(道路の建設 都城定住自立圏 周辺市町の人口 UIJ ターン説明会) ・ 生徒アンケートから把握した生徒の興味や曾於市が取り組もうとしていることから選んだ9つの項目について、調べ学習にとりかかる。 	●	●	●	● 歳入・歳出に関する円グラフを理解している。 ● 自分が暮らす地域について理解している。 ● 資料を活用し、積極的に調べ、メモを取ろうとしている。(ワークシート)

第4時	◇ 少子高齢化と財政（2／3） ・ 9つの項目について、調べ学習の続きを行う。 ・ 9つの項目について、曾於市にとって大切だと思う順にダイヤモンドランキング〈1-2-3-2-1〉で並び替えさせる。（A～Iの番号で書かせる）			○	○ 課題解決に向けた情報収集ができています。（ワークシート） ● 調べた情報を使い、活動に参加している。（ミニボード）
第5時	◇ 少子高齢化と財政（3／3）（本時） ・ 費用の視点から横軸上にA～Iを並び替える。 ・ 横軸に縦軸を加え、縦横にした座標軸上にA～Iを位置付ける。 ・ 縦軸の条件を変化させ、座標軸上にA～Iを再度位置付ける。 ・ 座標軸で変化したことをもとに、グループでダイヤモンドランキングを並び替える。 ・ まとめへ向け、他班の意見を聞く。			● ● ● ○	● 調べた情報を使い、意見を交換している。 ● ひとつ前の座標軸との違いを認識し、位置づけを考えている。 ○ 本時の活動を元に、課題解決に向けて思考を深めている。（ワークシート） ●
第6時	◇ 単元のまとめ ・ 前時までに定着していなかった財政に関する知識を補完する。 ・ これまでの学習を振り返り、曾於市の財政と国の財政に関するまとめ文を記入する。	●		○	○ 現在の財政状況と今後の展望を踏まえたまとめをしている。

5 本時の実際（5／6）

(1) 主題 少子高齢化と財政

(2) 本時の目標

- ア 財政が、人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを、圏域内の統計資料などの根拠をもとに理解できる。〈知識及び技能〉
- イ 財政の確保と配分という観点から、少子高齢社会の特色を踏まえて、財政の現状や持続可能性について意見交流できる。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ウ ダイヤモンドランキングや座標軸をもとに、財政に関する討議で交流し、財政の持続可能な社会の形成に生かすことができる部分を見出そうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉

(3) 指導にあたって

本単元は、財政の仕組み・税金の役割・国や地方公共団体の役割と課題・社会保障制度の仕組みや消費税の役割を学ぶよう構成されている。地方財政（地方交付税・地方交付税交付金・地方債）は、政治分野で取り扱う内容であるが、財政・社会保障制度・少子高齢化と関わる内容であるため、本単元で扱うこととした。第3時から第5時（本時）の計3時間は、国や地方財政の知識を身に付け、それぞれの働きや役割について考察してきた生徒たちがそれまでに学んだことを活用し、さらに学びを深めていくことをねらいとしている。少子高齢化と財政の題材は、国の財政と社会保障制度との関わりの中で学ぶように設定されているが、今回は地方財政の実際を理解し、地域の実情を踏まえたこれからの考えていくことができる少子高齢化と財政の学習内容を意識した。そこで曾於市を題材に取り上げた。曾於市は県境をまたいで都城定住自立圏を構成していることから、地域づくりでは珍しいパターンである。また、国際バルク戦略港湾を有する志布志市に隣

接し、地理的事実が畜産を盛んにする一つの要因となっている。地域の実態把握のため、隣接している自治体の特色や、曾於市が周辺地域よりも高齢化率が高い点に着目させたい。

指導するにあたり、少子高齢化は財政との関わりにおいて、自主財源不足の一因となること、税収や保険料の収入だけでは支えきれない社会保障制度は地方財政をひっ迫させていくことを全体で確認してから進んでいきたい。

生徒の関心を引き出して学習内容を身に付けさせる工夫としては、ダイヤモンドランキングや座標軸の活用を試みたい。あわせて班で考えたものだけでなく、別の班の生徒が考えたものも見聞きできるような工夫を行いたい。ダイヤモンドランキングのよさは、優先順位を視覚化しやすいことや、生徒が練り合いをしやすい点にある。本時では、座標軸を活用しながら、例示した各施策の位置付けを自分の班の仲間と検討し合い、新たなダイヤモンドランキングを作成させる。その後ホワイトボードを使用して全体で共有したのち、前時の終末に作成したダイヤモンドランキングとの違いを確認し、自分の考えを形成することにつなげていきたい。最終的に、少子高齢社会においては、地方創生の取組の継続により、地域力を維持していくことが、依存財源からの脱却への道筋の一つにつながり、国や地方公共団体の財政や福祉が充実したものになるという意識付けができるようにしたい。

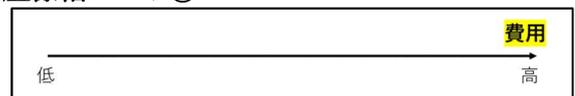
(4) 本時で用いるダイヤモンドランキングと座標軸のイメージについて

第4時の後半で曾於市にとって重要な順でダイヤモンドランキングを作成し、第5時では座標軸①～③の活動を取り入れる。第3時で曾於市の課題として捉えた少子高齢化・人口減少、経済の衰退・財政への影響、地方創生に対応できる歳出を考えるために、座標軸①～③の活動を踏まえて、第5時の後半で再度ダイヤモンドランキングを作成する。グループ活動の中に複数の思考ツールを用いることで、結果を比較することができ、より深い学習と課題解決を目指す。

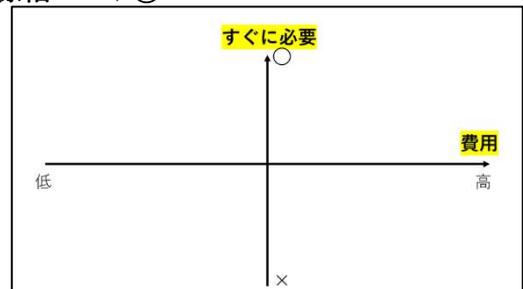
【9つの項目】(生徒へはワークシートで示す)

- A 【日本初の取組】 廃校を活用した畜産拠点の整備
- B 【効率のよい行政へ】 新市庁舎の庁舎整備事業
- C 【移住・定住対策】 宅地分譲整備事業
- D 【子育て環境の充実】 子ども・子育て支援給付金
- E 【通学・散歩も安心】 マインドロードに街灯整備
- F 【農業を支える】 農道等維持補修費
- G 【予防接種】 乳幼児や子ども、高齢者の予防接種
- H 【体育施設管理費】 体育館やグラウンドゴルフ場
- I 【ふるさと納税の活用】

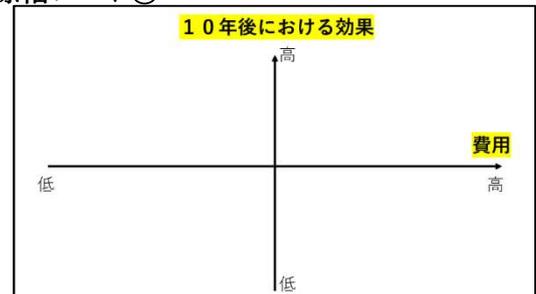
座標軸シート①



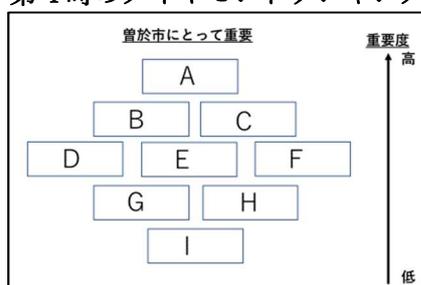
座標軸シート②



座標軸シート③



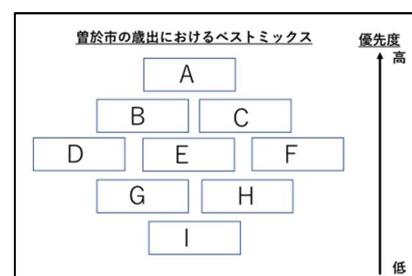
第4時のダイヤモンドランキング



比較



本時のダイヤモンドランキング



(5) 本時の展開

過程	主な発問や指示	学習活動	資料・指導上の留意点	情報提示
導入 5分 全体 (グループで開始)	○ 前回までの学習内容を確認し、本時の学習内容を確認しよう。	1 学習課題の確認	・ 前の時間に活用したワークシートを確認する。	<u>前時に作成したランキング</u> (ミニボードのコピー)
	本時の課題 「曾於市の少子高齢社会と地方創生に対応できる財政のバランスを考えよう」			
展開 38分 グループ	○ 本時では、さまざまな角度から9つの項目を検証して、最後にもう一度ダイヤモンドランキングを作ろう。	2 学習の流れを確認する。	・ 展開で4つの短い活動を行うことを伝えておく。	
	○ グループを作り、費用の面から、横軸上に A~I を並べてみよう。	3 費用の視点から横軸上に A~I を並び替える。	・ 横軸は「費用：多い⇔少ない」とする。	<u>座標軸シート①</u>
	○ 縦軸を加え、座標軸上に A~I を並べてみよう。	4 横軸に縦軸を加え、縦横にした座標軸上に A~I を位置付ける。	・ 縦軸を「すぐ必要：○⇔×」とする。	<u>座標軸シート②</u>
	○ 縦軸の条件を変えて、座標軸上にもう一度 A~I を並べてみよう。	5 縦軸の条件を変化させ、座標軸上に A~I を再度位置付ける。	・ 縦軸を新たな視点「10年後に効果あり：高⇔低」とし、財政を考える際の考え方を広げる。	<u>座標軸シート③</u>
まとめ 7分 一斉	○ 緊急性や持続可能性を総合的に踏まえながら、グループでダイヤモンドランキングを並び替えてみよう。	6 座標軸で変化したことをもとに、グループでダイヤモンドランキングを並び替える。	・ ダイヤモンドランキングの軸を曾於市の財政にとっての「ベストミックス」とする。	<u>ミニボード</u>
	○ クラス全体で共有しよう。	7 各班が並び替えたダイヤモンドランキングについてクラス全体で共有する。	・ さらなる合意形成のために6班すべてを発表する。聞く側は効率と公正のバランスはよいか考えて聞く。	<u>発表班のランキングを示したホワイトボード (大)</u>
	○ 次時はこれまでの活動を踏まえ、少子高齢社会に対応できる財政についてまとめをしよう。	8 次時の連絡	・ 時間の関係等で、発表できない班は次時の導入で発表する。	

(6) 本時の目標

- ア 財政が、人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを、圏域内の統計資料などの根拠をもとに理解できた。〈知識及び技能〉
- イ 財政の確保と配分という観点から、少子高齢社会の特色を踏まえて、財政の現状や持続可能性について意見交流できた。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ウ ダイヤモンドランキングや座標軸をもとに、財政に関する討議で交流し、財政の持続可能な社会の形成に生かすことができる部分を見い出すことができた。〈学びに向かう力、人間性等〉